

シルバーセンター



平成22年9月

No. 87

【目次】

| | |
|-----------------------------------|----|
| 理事長就任挨拶・前理事長退任挨拶 | 2 |
| 「安心介護に関する講座」認知症についてー保土ヶ谷事務所ー | 3 |
| 「サークル活動あれこれ」写真同好会・あすなろー神奈川事務所ー | 4 |
| 「仕事あれこれ」①ベイサイド迎賓館庭園の手入れ・清掃 | 5 |
| ②中山・十日市場駅周辺でクリンスタッフとして就業 | 6 |
| 平成二十一年度事業報告書／平成二十一年度収支決算書 | 7 |
| 第二十七回創作展開催と出品のご案内／平成二十二年技能講習会予定 | 8 |
| 「安全と健康のひろば」甩手健康法と実技（太極拳）講習に参加 | 9 |
| 安全啓発研修会（植木・除草関係）参加者アンケートにみる事故の実態 | 10 |
| 設立三十周年記念標語／設立三十周年記念事業「ボランティア清掃活動」 | 11 |



撮影 南事務所会員
飯島 信仁

童謡「赤い靴」で知られる「赤い靴はいてた女の子」の像
横浜港に臨む山下公園（中区）に置かれている。



理事長就任にあたって

理事長 守屋 直なおし

会員、そして発注される関係者の皆様におかれましては、ご健勝のこととお喜び申し上げます。

大澤正之前理事長の後任として、平成二十二年四月一日付で理事長に就任いたしました。

退任にあたって

大澤 正之



平成二十一年四月に理事長に就任してから、一年という僅かな期間でありましたが、会員の皆様、関係者の皆様からのご支援、ご協力を賜り、厚くお礼申しあげます。

財団法人横浜市シルバー人材センターは、本年十月に設立三十周年を迎えることとなります。

これはひとえに、多くの発注者や市民の皆様から、センター事業に対しての、ご理解とご支援を受けるとともに、会員の皆様方の誠心誠意のご活躍ご尽力の賜物と改めて敬意を表します。

記念事業では、企業団体、市民等へセンター事業の認知度を更なる高めるため、式典の開催、記念誌の発行、地域の貢献及び会員間の交流を図るイベントとして、ボランティア清掃活動（市内十八ヶ所

の駅前広場等）を実施し、受注開拓や会員増強に繋げてまいります。

長引く経済不況の中、シルバー人材センターを取り巻く環境も厳しい状況であります。一層進展する高齢社会にあつて、当センターの役割である高齢者の就業を通じた生きがいづくりと地域への貢献という公益的使命は、益々重要なものとなってくるものと思えます。

歴代の理事長をはじめ諸先輩並びに会員の皆様方が築かれた三十年の足跡と伝統を踏まえ、役員が一丸となつて、地域社会に貢献

この一年を振り返つてみますと、センターの自主的・自立的な経営基盤を確立するための新たな財源確保として、会員皆様のご理解とご協力のもと、「年会費」制度を実施させていただきました。

また、この年会費制度実施後の会員への新たなサービスとして、本部・事務所に「就業相談コーナー」を常設し、未就業会員を中心に、きめ細やかな相談を行い、一人でも多くの会員に就業機会を提供するとともに、「会報誌」の発行回数拡大等を行いました。

するシルバー人材センターとして更に発展充実したものとなるよう積極的に取り組む所存でございます。

自主・自立・共働・共助を基本に希望と能力に応じた就業で、住みよい地域社会をめざしましょう。

会員の皆様におかれましては、ご健康に十分ご留意され、ご活躍されますとともに、シルバー人材センター事業の運営に、更なるご協力とご支援を賜りますようお願い申し上げます。就任の挨拶とさせていただきます。

事業面については、長引く景気低迷による雇用情勢悪化の影響等に伴い、契約金額が減少する中、

さらに昨年の行政刷新会議での事業仕分けによる国庫補助金の縮減に加え、厳しい財政事情から市の補助金も削減が続く、センターの

経営は、極めて困難となることから予想されたことから、事務事業の見直し等を徹底したほか、事務費率を平成二十二年四月から十％に改定させていただくこととしました。

これもひとえに、皆様のセンタ

ー事業へのご理解とご支援の賜物と感謝いたします。

このような大きな変貌を遂げたこの時期に携われたことに充実感を感じております。

今後、益々センターに対する期待が高まる中、守屋新理事長のもと会員の皆様のご協力を得て、より一層の発展を願うとともに会員の皆様のご健勝とご活躍を祈念しまして、退任の挨拶とさせていただきます。

ありがとうございます。

安心介護に関する講座 認知症について

— 保土ヶ谷事務所 —

シルバー人材センター保土ヶ谷事務所で開催された平成二十二年六月の会員交流会に参加、取材しました。

交流会の中心テーマは保土ヶ谷区役所福祉保健センター高齢・障害支援課の出前講座で、五人のスタッフによる「認知症予防と認知症サポーター養成講座」です。

四十八人の会員が参加した会場は満席で、スタッフの話に熱心に聞き入っていました。

以下講座の内容を紹介します。

横浜市の人口の高齢化

横浜市の六十五歳以上の人口は約六十九万人（平成二十一年三月末）となり、全人口に対し、一九％（五人に一人）にあたります。今後六十五歳以上の人口は増え続けて平成三十七年には、四人に一人となる見込みです。

高齢者の増加と共に認知症の方も増えていくことが予測されます。そうした中、暮らしやすい街づくりを共にすすめていくパート



熱心に聞き入る受講者

ナーである認知症サポーターに大きな期待がかかっています。

認知症とは

認知症は誰でもがなりうる脳の病気です。特に六十五歳以上から発症率が上がり、八十五歳以上では四人に一人が発症すると言われていています。ただし、近年では六十五歳未満の人が発症する若年性認知症も見られるようになってきています。

認知症には、アルツハイマー性認知症、脳血管性認知症、レビー

小体型認知症、前頭側頭型認知症など色々な種類があります。

認知症と物忘れの違いは

ある程度年を取ると人の名前などがとっさに思い浮かばないことを経験します。大抵その日に思い出しますが、これは加齢による普通の物忘れです。

一方、認知症では今朝、食事をしたことすら思い出せません。出来ごとをすっかり忘れてしまったり、脳の障害による病的な物忘れです。

認知症予防のポイント

・栄養のバランスのとれた食生活を心がける。

・脳の健康を保つために睡眠、食事など規則正しい生活をする。
・脳の血流を増やすために適度な運動を行う。
・頭を使って脳の活性化を図る。

認知症サポーターへの期待

・本日、受講者全員に配布されたサポーターの印であるオレンジリングを外出の際着ける。
・認知症に対して正しく理解し、偏見を持たない。
・認知症の人や家族に対して温かい目で見守る。

認知症サポーターは何か特別なことをするものではありません。あなたの出来ることをして下さい。

「はまちゃん体操」で元氣良く

講座の最後に五本指を使った体操「はまちゃん体操」、「あんたがたどこさ」の音楽遊びを全員で元氣良く唄って終わりました。

認知症は、高齢化が進む現在、身近な問題であり、紙芝居による分かりやすい説明と、質問も活発に出た有意義な講座だったと感じました。

（編集委員 稲葉 正幸）



童心に帰ってグーパー「はまちゃん体操」

サークル活動あれこれ

「写真同好会・あすなろ」——神奈川事務所——

神奈川事務所はJR東神奈川駅から徒歩十数分、老人福祉センター横浜市うらしま荘の二階にあります。六月八日午後一時より一階の研修室で開かれた神奈川写真同好会の例会取材しました。

会の名は「あすなろ」

「あすなろ」は、深山に自生するヒノキ科の常緑高木で、ヒノキに次ぐ良材です。「明日はヒノキになろう」の意味があり、会の志と同じところから名がつけられました。



レベルアップに繋がる講評会

同好会は平成八年一月に設立され、現在会員は二十人です。取材当日は十二人が出席、会長挨拶に続き写真展の報告と反省、撮影会の検討（二か月に一回開催）や講評会などが、順序よく進行されていました。

講評会は、各自持参した写真のうち、一人につき三枚の作品に対し、講師（会員）を中心に講評が行われます。

「あすなろ」写真展開催

例会で報告のあった写真展は、去る五月二十五日～三十一日までの一週間、東神奈川駅近くの「かなっくホール」で開催され、今回で二十二回目を迎えた会場に私も見に行くことができました。

ギャラリーは、入口から順に春夏秋冬の景色など五十四点が展示されていました。期間中、四百四十六人の入場者が訪れ、自称長年ファンという人から「今年はハーモニーを奏でている様な素晴らしい出来映えですね」と、感嘆の声

が寄せられたそうです。それぞれの作品を紹介できなくて残念ですがそれは見事な力作揃いでした。



かなっくホールでの「あすなろ」写真展

親睦が魅力

会員の皆さんに話を聞きました。

- ◆ ①写真の醍醐味は：瞬間のひらめき
 - ◆ 一期一会の楽しみ
 - ◆ 芸術家気取りになれる
 - ◆ 思わぬ結果に出会える
 - ◆ ②同好会の魅力は：第一に親睦
 - ◆ 批評されることによりレベルアップが図れる
 - ◆ 健康と元気を貰える
- 等々、いろいろな思いが伝わった。

てきました。

カメラは、様々な種類が使用されています。また写真の仕上げは、①光沢、②絹目調、③マット紙、の三つがあり、作品の内容の良さをより引き立たせるため、仕上げを選択することでした。現在、会員募集中です。



これはよく撮れていますね……

取材を終えて

心が震えた瞬間を撮る楽しみが生き甲斐となり、明日への活力を生む源となっていることを、皆さんの笑顔の中に見つけました。

新緑に囲まれた研修室での光景は一枚の「和やか」な写真を見ている思いがしました。

（編集委員 服部 文子）

仕事あれこれ①

ベイサイド迎賓館
庭園の手入れ・清掃

ランドマークタワーなど高層ビルが建ち並ぶ横浜市西区のみならず、幅広い地区に、ひととき異彩を放っているのが「ベイサイド迎賓館」と併設の「ベイサイドガーデンクラブ」です。

六本の列柱に大階段など、ギリシア神殿を思わせる華麗な建物は、(株)テイクアンドグヴ・ニーズが展開するハウスウェディング会場で、チャペルやパーティールームだけでなく、プールも備える広い芝生の庭園が特徴です。



重厚なベイサイド迎賓館の正面

今回はその建物の外周りの清掃や庭園の手入れ作業に従事している千代澤康子会員と松平初枝会員のお二人を訪ねました。

暑さ対策は慎重に

取材日は梅雨の晴れ間でとても蒸し暑く、両会員とも汗を拭きながら就業していました。

帽子はもちろんのこと、長袖に手袋といういでたちで、この時期ならではの暑さや紫外線を避けるため、素肌は極力露出させないようにします。また植え込みでの作業も多いため、防虫スプレーは手放せないとのことでした。

さらに、熱中症にならないよう、水分補給にも十分気を遣って作業に当たっています。

就業時間は朝九時半から五時間ほどで、週に二日就業します。千代澤会員は二年、松平会員は一年のキャリアで、ともに暑さ寒さの季節を経験されてきましたが、冬の寒さより夏の暑さの方が大変だということでした。

仕事の内容は広い敷地内の植栽の手入れ、芝生の水やり、雑草取り、落ち葉清掃等を二人ペアになっ

女性ならではの細やかさで

庭園の手入れや清掃などのいわゆる外仕事は男性の会員が従事する 경우가多く、ベイサイド迎賓館のように女性を希望されるのは珍しいことです。建物のイメージや結婚式場という特徴から、女性の細やかな作業が評価されているようで、ベイサイド迎賓館の山本支配人からも好評をいただいているようです。

「自然相手の仕事なので、自然からエネルギーをもらえるように、充実感があります」とやりがいを感じている両会員ですが、立ったりしゃがんだり作業が多い



千代澤会員(左)と松平会員(右)



作業中の両会員

ので、やはり腰などへの負担には悩まされているとのことでした。

取材を終えて

結婚式場というと華やかな場所ですが、その雰囲気さをさらに盛り上げる美しい庭園の芝生や植え込みを最適な状態に保つためには、千代澤・松平両会員のような裏方の労力も欠かせません。

暑さ寒さ、雨や風など自然の影響をまともに受ける屋外での作業だけに、健康には十分留意され、両会員の今後のご活躍を期待しています。

(編集委員 小川 実)